

工芸科 学部入試 出題意図

一次試験 鉛筆写生

今年度も昨年度に続き石膏像をモチーフとした。今まで工芸科は胸像が多く出題されていた中で、立像人体の動きを表現する半身像のアムール像とした。モチーフの持つイメージを大切に人体の自然な立ち姿や色調及び、画面上の構図を的確に構成し表現できているかを採点基準にした。

二次試験 平面表現

幾何的な正円と正方形を効果的に構成し、その中に設定された三つの要素を自主的に解釈・消化することで、各自の世界観や価値観を生み出す能力とそれを的確に表現するためのモチーフ・イメージに対する観察力、色彩感覚、構成力を求めています。

二次試験 立体表現

立体表現は、各自のイメージを形にする造形力やそれを表現するための観察力、空間の把握や量のバランス感覚、素材の探求力など工芸表現には欠かせない基礎力を判断するために実施しています。これからの工芸の多様な変化に対応できる立体感覚を持った学生を求めます。